【尾肝要道路 開通1年後】 三陸沿岸道路

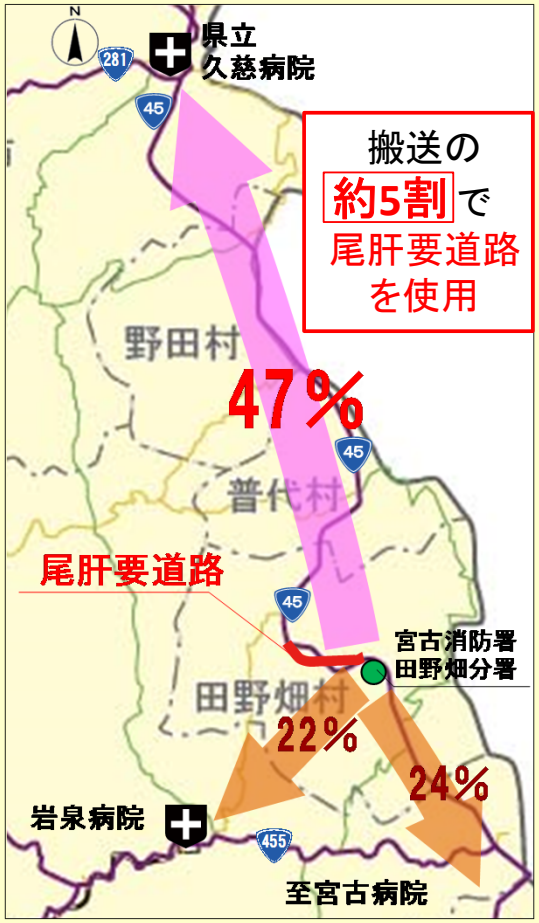
尾肝要道路が開通して

（平成26年3月2日開通）

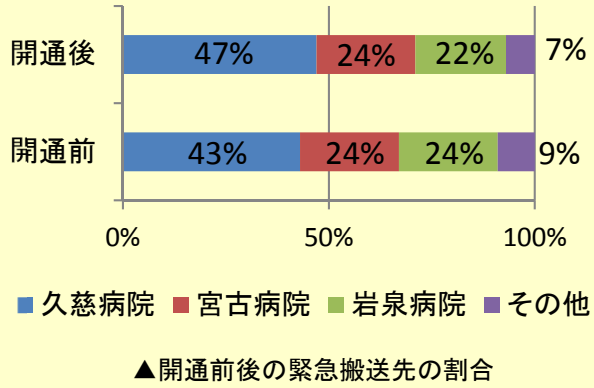
①安定した救急搬送で患者負担が軽減
②交通の安全性が向上
③復興祈念祭が盛況、地域の活性化に貢献
④地域福祉の充実に貢献

①安定した救急搬送で、患者負担が軽減

〇救急医療施設のない田野畑村では開通以前から久慈市への搬送が5割
〇国道45号は急勾配、急カーブが連続し、揺れが救急患者に悪影響
〇開通により大きな揺れが0回となり、患者負担が大きく軽減。



▲田野畑分署の搬送先割合
※田野畑分署ヒアリングより（H26.3～H27.3）



▲開通前後の緊急搬送先の割合

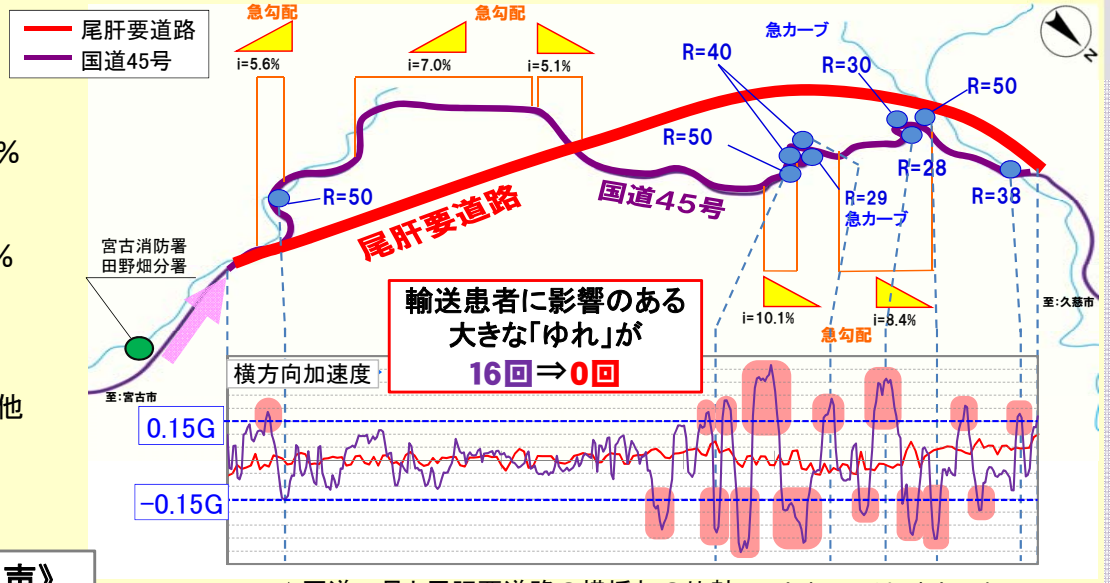
《宮古消防署 田野畑分署 救急隊員の声》

◆くも膜下出血や脳梗塞などの脳疾患では、血圧の変動が再出血など、命に関わる重症化に繋がりかねません。尾肝要道路が出来て安定搬送が出来るようになり、患者の負担軽減につながりました。

◆大きな横揺れがなくなり、点滴などのための注射が走行中でも可能になりました。

（H27.2 田野畑分署ヒアリングより）

〇現道は搬送患者の身体に影響のある「揺れ」が16回発生
〇開通により大きな揺れは解消。安定した搬送が可能に



▲国道45号と尾肝要道路の横揺れの比較　※実走による加速度調査より

～加速度（大きな揺れ）による人体への影響～

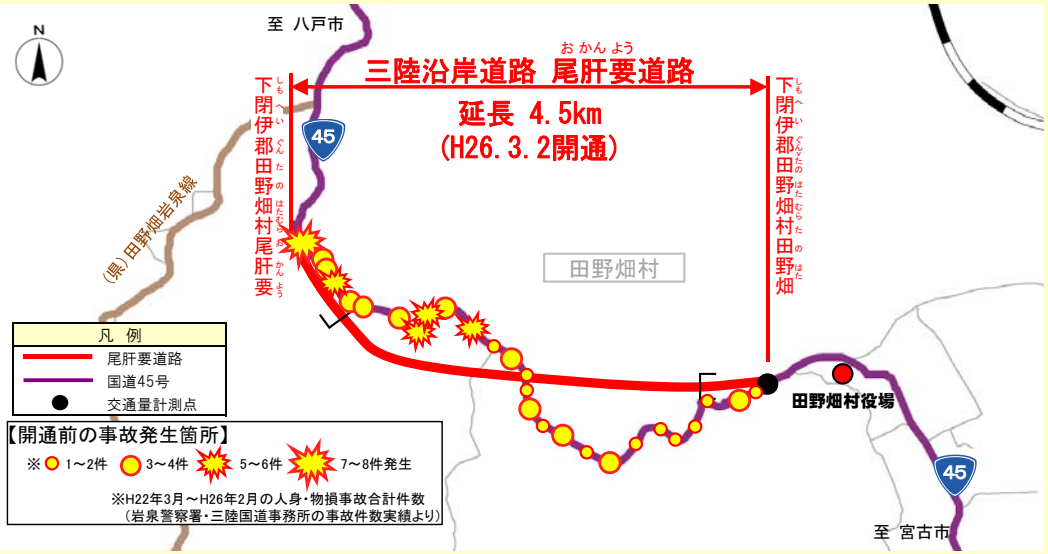
・横加速度が0.15Gを超過すると、最高血圧の変動量が10mmHgを超過する傾向が強い。
・医師へのヒアリングでは「10mmHgの変動」は患者の安静度に影響を与える可能性あり。

参考文献：地域の医療を支援する道路構造の分析・評価
第27回　日本道路会議，2007年

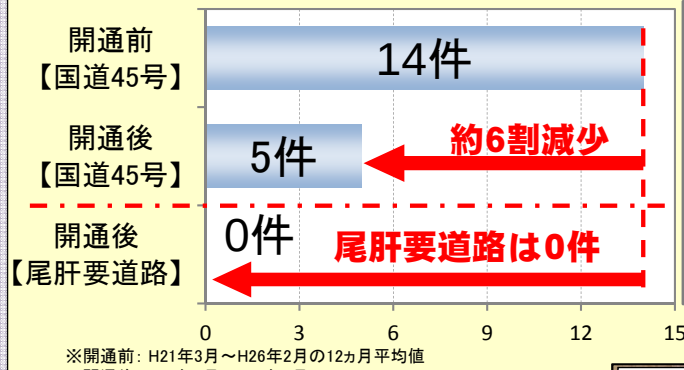
▲以前の搬送状況イメージ

②交通の安全性が向上

●国道45号の年平均交通事故は6割減少
●尾肝要道路の年平均交通事故発生件数は0件



▼国道45号および尾肝要道路の人身・物損事故件数の推移



※開通前：H21年3月～H26年2月の12ヵ月平均値
開通後：H26年3月～H27年2月

《運送業者の声》

◆閉伊坂峠は急カーブ、急勾配が連続していて冬期はスリップなどによる事故が心配でした。
尾肝要道路が開通し、このような区間を回避できるので安全性が向上しました。

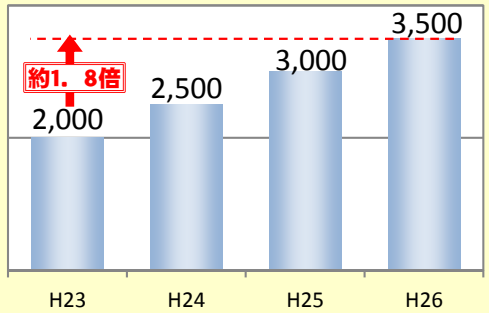
(H27.3 運送業者ヒアリング調査)

▼国道45号の交通状況

▼尾肝要道路の通行状況

③復興祈念祭が盛況、地域の活性化に貢献

●郷土芸能や復興元気市場などの催しが開催される「復興祈念祭」
●入込み客は開始当時の約1．8倍で、尾肝要道路を利用する久慈方面からのお客さんも多い



▲ 復興祈念祭の入込み客数 ※田野畑村調べ

※田野畑村提供

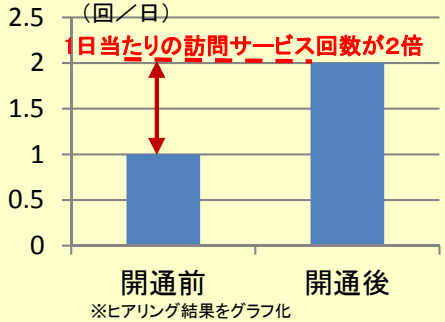
《復興祈念祭関係者の声》

◆村外からくる方のうち、3～4割は久慈方面からいらっしゃっていると思います。
◆広域的な産業、物流の復興を図るために、次年度も新たな催しを企画しています。

(H27.3 田野畑村ヒアリング調査)

④地域福祉の充実に貢献

●高齢化の進展にともない、訪問介護の必要性は増加
●移動時間が読めるようになったことから、午後の介護訪問件数を増やすことができ、1日2回の訪問介護や買い物サービスの実施が可能に



※ヒアリング結果をグラフ化

▲尾肝要道路起点～終点までの所要時間の変化

《訪問介護事業者の声》

◆ 利用者の中には1日2回(朝・晩)の訪問を要望される方もいますが、国道45号は急カーブ・急勾配が連続していて移動時間が読めず、1日の訪問件数を増やすことができませんでした。尾肝要道路の開通により、午後の訪問件数を増やすことができ、1日2回の訪問要望にも応えられるようになりました。
◆ それによって利用時間内に買い物サービスの実施も可能になりました。

(H27.3 訪問介護事業者ヒアリング調査)